



玉姫の間 麒麟の間 中庭

◎内容

- 見学者受付……………12時00分
- 一般受付……………13時00分
- 開会 熱海市教育委員会あいさつ……………13時20分
- 趣旨説明 静岡県教育委員会文化財保護課長……………
- 伊伝財団理事長表彰……………13時30分
- シンポジウム 災害遺産に学ぶ……………
- 【報告】……………13時45分
- (1)「伊豆東海岸の災害史」……………

金子 浩之 (伊東市教育委員会生涯学習課)  
市史編さん担当主幹

※起雲閣見学希望者は、12時に受付に集合してください。  
入館料：410円(団体割引)

静岡県伊豆半島の沿岸部は、過去に何度かの津波や高潮によって被害を受けており、その状況を伝える古文書や遺構などが近年多数発見されている。これらの災害史を紐解き、研究することは過去の災害に向き合い、未来の生活を守る盾となる。

静岡県文化財等救済ネットワークでは、「記憶をつなぐ」と題して第3回目のシンポジウムを開催する。郷土の災害を伝える文化遺産の事例を学習しながら、改めて「記録」が伝える災害の「記憶」を考える。

また、後半には静岡県文化財等救済ネットワークの会員の相互理解のため、意見交換やポスターセッションを実施する。

◎開催趣旨

『記憶をつなぐ』  
— 災害の歴史を知り、伝えるために —

# 第12回 シンポジウム 文化財を守る



記憶をつなぐ  
災害の歴史を知り、伝えるために

「幕末下田絵図」(模写)  
下田が西洋諸国に開かれた港(開港場)として賑わった安政4年(1857)の情景を描いたもので、画面中央に描かれている堤防(「**ク**」の字部分)が「武ヶ浜浪除け」です。

参加者募集のお知らせ  
第12回 シンポジウム (参加無料)

# 文化財を守る

日時 / 平成26年10月25日(土)  
13時20分～16時15分

会場 / 熱海市起雲閣ギャラリー

主催 / 静岡県文化財等救済ネットワーク  
一般財団法人伊豆屋伝八文化振興財団  
静岡県文化財保存協会  
静岡県博物館協会  
後援 / 熱海市教育委員会 静岡県博物館協会  
協力 / 起雲閣

(2)「町を守った武ヶ浜浪除け」

増山 順一郎 (下田市教育委員会生涯学習課)  
社会教育係 主査

【ポスターセッション】(休憩 20分)

【問題提起】……………15時20分

「災害遺産—保存から伝承へ—」

【意見交換】……………15時30分～16時15分

金子 浩之 / 増山 順一郎  
司会 日比野 秀男

◎定員

80名 (事前申込制・参加無料  
参加の方には整理券をお送りします。)

◎会場

熱海市 起雲閣 ギャラリー  
静岡県熱海市昭和町4番2号



●参加申込方法 (ハガキまたはメール)  
住所、氏名、年齢、電話番号、起雲閣 見学希望の有無を明記の上、下記宛にお送り下さい。  
【宛先】〒420-8601 静岡県葵区追手町9番6号  
静岡県教育委員会文化財保護課内 静岡県文化財保存協会  
「第12回シンポジウム 文化財を守る」係 まで  
【メールアドレス】E-mail: shizuokabunka@gmail.com  
●申込受付期間 / 9月16日(火) - 10月23日(木)  
※定員になり次第締め切らせていただきます。  
■お問合せ先: TEL.054-221-3159 (静岡県文化財保存協会) まで。



交通案内: ◆JR熱海駅から徒歩20分 ◆熱海駅前新バスターミナル 乗り場より ●湯～遊～バス(起雲閣西口)バス停下車 徒歩2分 ●①番乗り場: 梅園・相の原団地方面・清水町循環「起雲閣前」下車すぐ ●②番乗り場: 笹良ヶ台団地・西山・榎根方面「起雲閣前」下車すぐ ●③番乗り場: ひばりヶ丘・上の山・紅葉ヶ丘方面「天神町」下車 徒歩1分

伊豆東海岸の災害史



伊東市教育委員会 金子 浩之  
ここ数年、「伊東市史」のなかで江戸時代の災害の歴史をたどりました。我々の先祖たちは、飢饉・台風・洪水・地震・津波とさまざまな災害を乗り越えています。その貴重な経験を今生きる私たちが引き継ぐことで、被害の軽減に役立てる必要を感じています。現在、東大地震研究所の首都直下地震研究プロジェクトに参加して地震と津波の歴史を遡る方法で、将来の地震津波とその被害を予測する研究の最前線を勉強しています。

町を守った武ヶ浜浪除け



下田市の石積みの堤防「武ヶ浜浪除け」は、江戸前期の下田奉行今村伝四郎正長によつて、町と湊を波浪から守るために築造されました。海上交通の要衝として、出船入船三千艘の賑わいをみせた港町下田の歴史は、一方で災害の歴史でした。風水害の脅威だけでなく、三度襲った地震津波は多くの町民の財産と生命を奪いました。今回は下田の町の生命線として維持され続けた浪除けを主題に災害と町民の備え、対応について紹介します。

災害遺産—保存から伝承へ—



常葉大学 日比野 秀男  
村昭のルポルタージュで三陸海岸の凄まじい津波の様子を記しています。また、昭和8年の大津波は多くの災害をもたらした。大津波記念碑が建てられました。碑文には「津波の時は海に行くな、ここまで逃げて来い、ここより下に家を建てるな」このような趣旨の言葉が刻まれています。これらの記念碑は「慰霊」「記録」「未来の防災」このような趣旨で建てられたのです。災害遺産を将来の防災に役立てている方策を紹介します。

一般財団法人 伊豆屋伝八文化振興財団

〒422-8067 静岡県駿河区南町6-16-301パレ・ルネッサンス3階 TEL.054-284-7559 FAX.054-284-7563 http://www.iden.or.jp